

## 平成29年度 第4回人権教育パワーアップ講座

- 1 日時及び会場 平成30年1月29日(月) 13:30~16:20  
奈良県人権センター
- 2 参加者 人権教育ミドルリーダー育成講座第5期受講者 7名  
人権教育パワーアップ講座第1期受講者 13名 計20名
- 3 日程
- |             |          |
|-------------|----------|
| 13:30~13:35 | 開会       |
| 13:35~13:50 | アクティビティ  |
| 13:50~15:10 | 講演(実践報告) |
| 15:20~16:10 | 意見交換     |
| 16:10~16:20 | 閉会       |

### 4 内容(概要)

#### ○講演(実践報告)

「つながることで見えてきたもの」

講師 三重県松阪市立第二小学校 世古口 静香

- ・ 人口の約8%が、LGBTをはじめとする性的マイノリティ(電通総研による調査[2015年])という報告がある。身近な人たちとの関わりや、さまざまな出会いやつながりを通して、性的マイノリティの抱える生きづらさを受けとめ、話しやすい雰囲気や環境をつくるのが大切である。
- ・ 「家庭訪問」を軸として、厳しい環境にある子どもたちの背景にある保護者や家庭とつながりを持ち、その営みを通して、子どもたちをしっかりと受けとめ、つながりを太くしていくのが大切である。さらに、集団の中で、子どもと子どもが互いに支え合い学び合えるよう、いかに子どもたちをつなげていくかが教員の重要な務めではないかと考える。そのことが、子どもの自尊感情を育むことにつながっていくと考える。
- ・ 「特権」とは、努力することなく生まれながらに持っている権利のことである。自身のこれまでの経験から、差別の陰で「あたりまえ」であるはずのことを隠さざるを得ない人や、表現できず悩み苦しむ人の存在に目を向けることの重要性を学ぶことが大切である。「特権」は、社会の中で有利な立場の人たちの権利ではなく、一人一人が自分らしく輝ける社会を築く、誰もがもつ権利のはずである。差別の現状や歴史等を学ぶことを通して、その解決に向けた実践的行動力の育成に取り組んでいくことが重要である。



#### ○意見交換

講演の感想も交えながら、気づいたことや学んだことを、それぞれの学校の現状や、受講者自身の取組と関連づけながら意見交換を行った。特に、「子どもや保護者と、どのようにつながっていくか」について、活発に意見が交わされた。



### <参加者の声より>

- ・ 表面上見えるものだけで判断するのではなく、子どもたちと密に関わることで見えていなかったことや気づけなかったことを、自分自身で確認することが大事だと思った。そして、どの子も過ごしやすい学校、安心して過ごせる学校を目指し、これからもつながることを大切にしたい。
- ・ まるで一人一人の子どもたちの姿が見えてくるような実践報告を聞いて、久しぶりに胸が熱くなった。「子どもたちの心を開こうとするのではなく、いかに子どもたちをつないでいくかが私たちの仕事である。教師がどれだけ開こうとしても、子どもたち同士の力にはかなわない。」という言葉が印象的で、一人一人の子どもを大切に、支え合ってくれる、そんななかまづくりができるように日々努力していきたい。

※ 講座修了後(16:30~16:45)には、第5期受講者の修了式を行いました。